



I 第 27 週の発生動向 (2025/6/30~2025/7/6)

- 水痘については、三戸+八戸市保健所管内の定点当たり報告数が新たに**注意報レベル**となりました。一方、東津軽+青森市保健所管内の注意報は**解除**となりました。
- 伝染性紅斑については、三戸+八戸市保健所管内で**警報**が継続しています。
- 百日咳については、複数の保健所管内で患者が報告されており、特に**中南保健所管内**の報告数が多くなっています。手洗い等の基本的な感染対策の徹底をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「ヘルパンギーナ」です。

最終ページに掲載しています。

II 第 27 週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

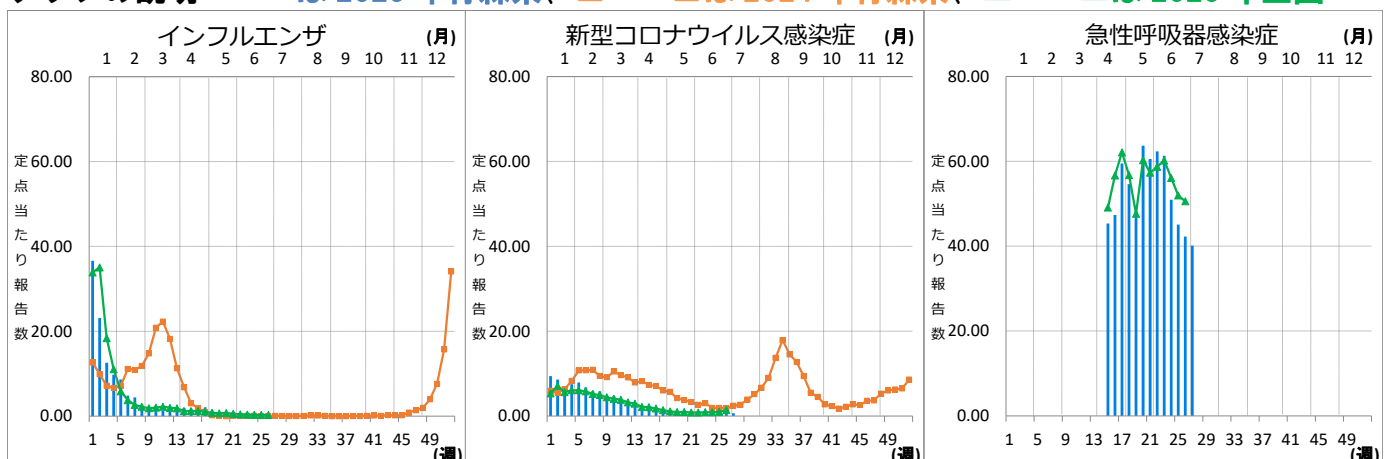
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報。「空欄」：患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	1	0.09											1	0.02	-1
	新型コロナウイルス感染症	7	0.64	7	0.70	12	1.20	4	0.67	3	0.33	2	0.33	35	0.67	-7
	急性呼吸器感染症	660	60.00	317	31.70	296	29.60	268	44.67	251	27.89	295	49.17	2087	40.13	-111
小児科	RSウイルス感染症							3	0.60					3	0.09	2
	咽頭結膜熱	1	0.17	3	0.50	2	0.29							6	0.18	-1
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	0.83	3	0.50	7	1.00	4	0.80	3	0.50	2	0.50	24	0.71	-6
	感染性胃腸炎	29	4.83	16	2.67	43	6.14	10	2.00	7	1.17	1	0.25	106	3.12	17
	水痘	3	0.50	1	0.17	12	1.71			4	0.67			20	0.59	3
	手足口病	1	0.17	1	0.17	1	0.14							3	0.09	3
	伝染性紅斑			2	0.33	15	2.14	4	0.80	2	0.33	3	0.75	26	0.76	8
	突発性発しん	1	0.17	4	0.67	5	0.71			3	0.50	1	0.25	14	0.41	7
	ヘルパンギーナ	1	0.17											1	0.03	0
	流行性耳下腺炎	2	0.33	2	0.33									4	0.12	2
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎					1	0.50							1	0.10	0
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															-1
	マイコプラズマ肺炎					1	1.00					3	3.00	4	0.67	-4
	無菌性髄膜炎															0

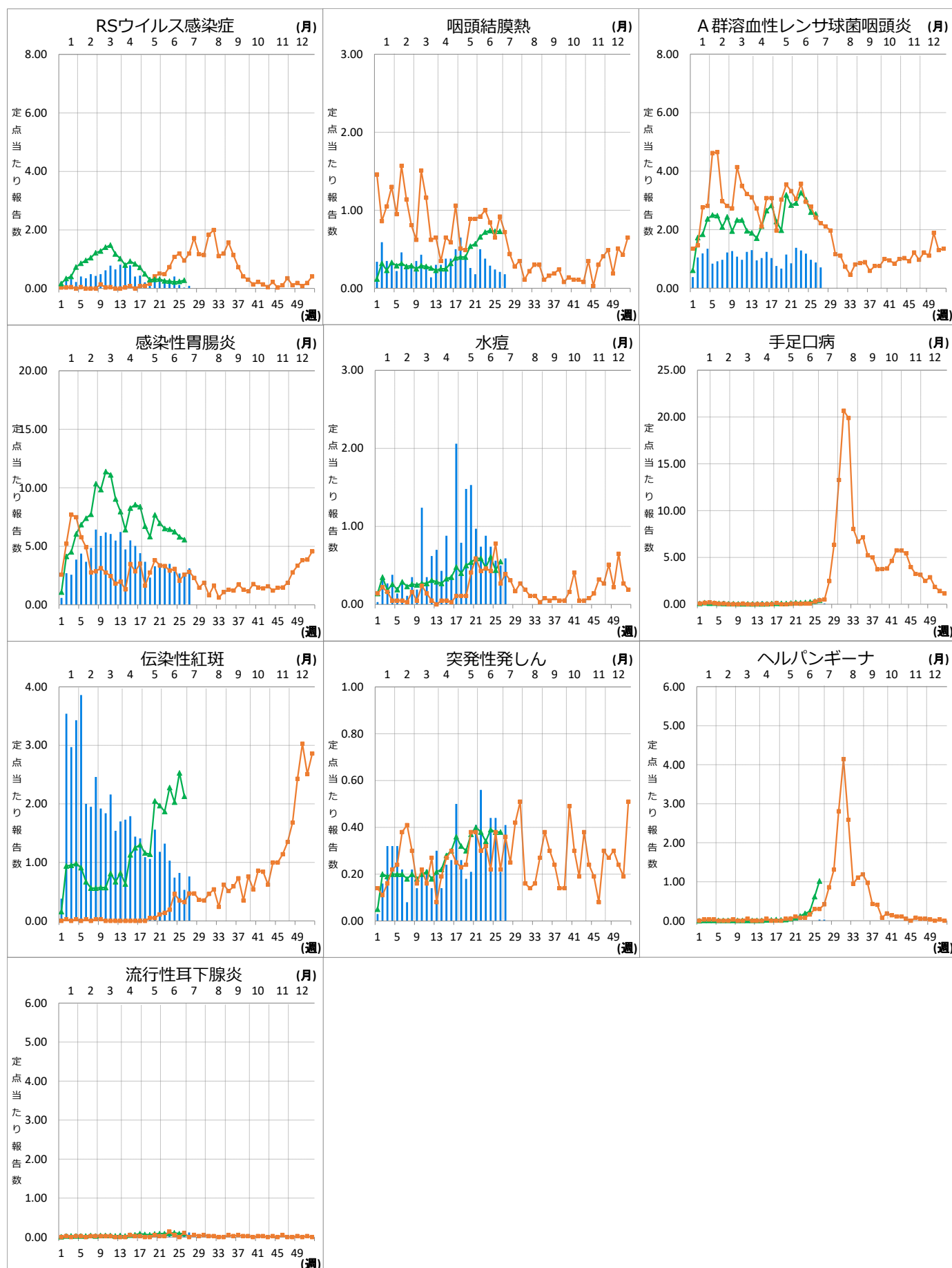
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2025 年第 27 週、ただし全国は前週)

グラフの説明 〓は 2025 年青森県、■は 2024 年青森県、▲は 2025 年全国



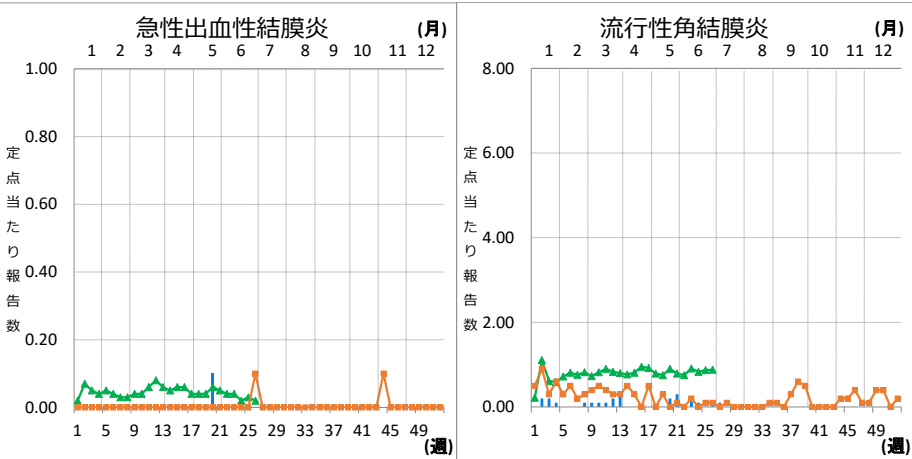
Ⅳ 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2025 年第 27 週、ただし全国は前週）

グラフの説明   は 2025 年青森県、 は 2024 年青森県、 は 2025 年全国



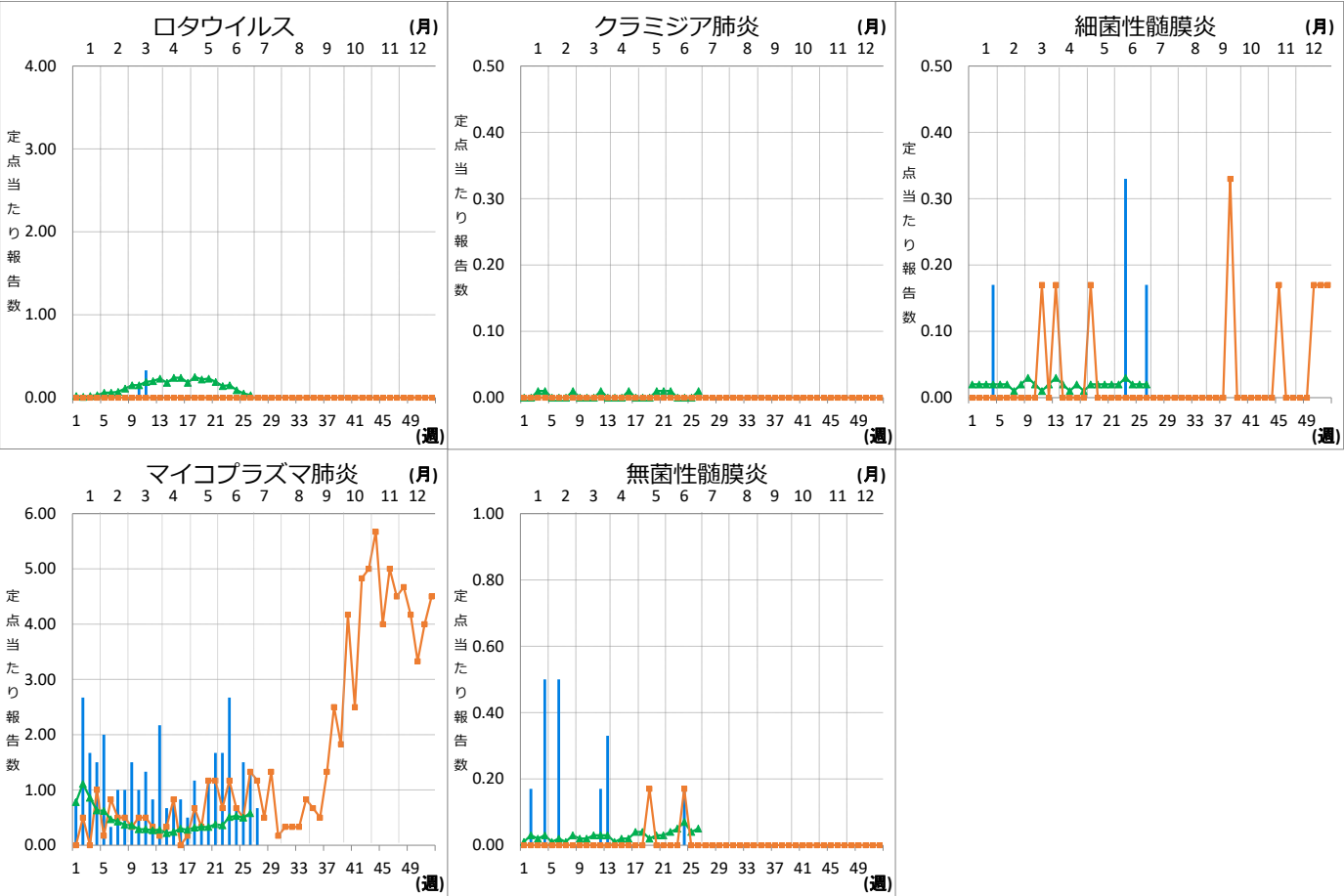
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2025 年第 27 週、ただし全国は前週）

グラフの説明👉は 2025 年青森県、■は 2024 年青森県、▲は 2025 年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2025 年第 27 週、ただし全国は前週）

グラフの説明👉は 2025 年青森県、■は 2024 年青森県、▲は 2025 年全国



Ⅶ 急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体検出情報

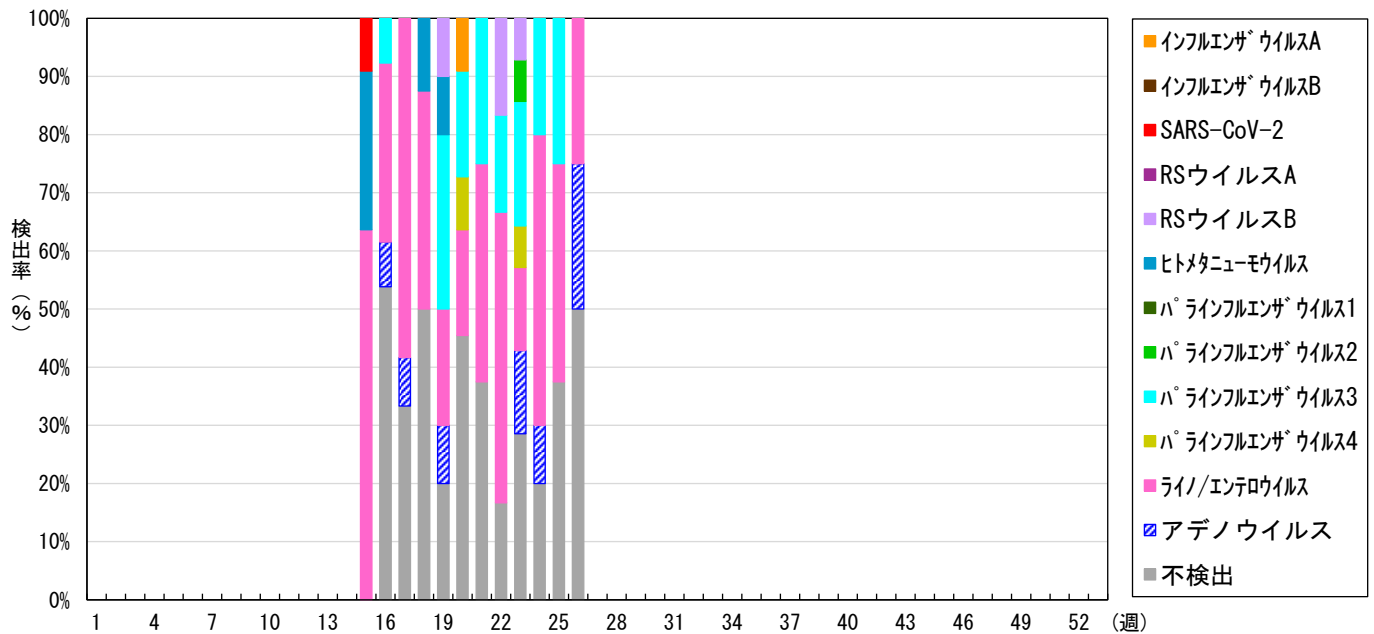
(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2025 年第 20～27 週)

急性呼吸器感染症	2025年							
	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週
提出検体数	11	8	6	11	10	8	9	10
インフルエンザウイルスA	1	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
SARS-CoV-2	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスB	0	0	1	1	0	0	0	
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	1	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス3	2	2	1	3	2	2	0	
パラインフルエンザウイルス4	1	0	0	1	0	0	0	
ライノ/エンテロウイルス	2	3	3	2	5	3	2	
アデノウイルス	0	0	0	2	1	0	2	
不検出	5	3	1	4	2	3	4	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	2	10

※第23週に提出された検体のうち、RSウイルスB、ヒトパラインフルエンザウイルス3及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体、ヒトパラインフルエンザウイルス3及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第26週に提出された検体のうち、ライノ／エンテロウイルス及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

(2) 検出された病原体の週別推移 (2025 年第 15 週～)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第 27 週）

- ・結核（二類感染症）：青森市 1 人 (2025 年計： 60 人)
- ・腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）：上北 1 人 (2025 年計： 9 人)
- ・百日咳（五類感染症）：青森市 2 人、中南 10 人、八戸市 6 人、西北 1 人 (2025 年計： 519 人)

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2025 年第 24 週～2025 年第 27 週）

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
24	梅毒1人 百日咳4人	侵襲性肺炎球菌感 染症1人 百日咳11人	百日咳8人	百日咳1人	結核1人 つつが虫病2人 百日咳2人	
25	結核1人 つつが虫病2人 クロイツフェルト・ヤ コブ病1人 百日咳6人	つつが虫病1人 梅毒1人 百日咳12人	結核1人 クロイツフェルト・ヤ コブ病1人 百日咳5人	百日咳2人	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症1人 レジオネラ症1人 百日咳1人	
26	結核2人 腸管出血性大腸菌 感染症1人 つつが虫病1人 侵襲性肺炎球菌感 染症1人 百日咳1人	結核2人 百日咳11人	結核2人 百日咳10人	百日咳1人		
27	結核1人 百日咳2人	百日咳10人	百日咳6人	百日咳1人	腸管出血性大腸菌 感染症1人	

第 25 週に青森市保健所管内で百日咳の届出が 2 件ありましたので追加しました。

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2025 年第 1 週～第 26 週までの累計）											
分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкоккс症	エムボックス	
累積報告数	6735	3	24	932	15	3	301	74	13	1	
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	オウム病	回帰熱	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介脳炎	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ブルセラ症	
累積報告数	7	3	2	91	1	9	95	69	230	1	
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	ボツリヌス症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	
累積報告数	1	10	5	1	1069	2	234	119	691	13	
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	急性脳炎	クリプトスピリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	
累積報告数	288	14	86	783	405	15	402	50	2270	338	
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症			
累積報告数	6890	84	34	49	39672	8	167	4			

青森県（2025 年第 1 週～第 27 週までの累計）

分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	つつが虫病	日本紅斑熱	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	
累積報告数	60	9	1	13	1	5	1	6	1	3	
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒	百日咳					
累積報告数	5	1	3	14	11	519					

XI 病原体検出情報 ※（ ）内は、検査材料及び検体採取日報告はありませんでした。

XII 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2025 年第 27 週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第27週	報告なし		

2025 年報告件数及び発症者数

月(週)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月					8月	9月	10月	11月	12月	計
施設種別		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27週	28週	29週	30週	31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週	(施設別)
介護・老人福祉関係施設	件数	1	4	4	4	1	0	0										14
	発症者数	7	70	69	78	11	0	0										235
児童・婦人関係施設等	件数	4	10	8	7	1	3	0										33
	発症者数	74	228	136	128	25	50	0										641
障がい関係施設	件数	0	2	2	1	1	0	0										6
	発症者数	0	37	25	10	5	0	0										77
その他施設	件数	0	0	0	0	0	1	0										1
	発症者数	0	0	0	0	0	10	0										10
計(月別)	件数	5	16	14	12	3	4	0										54
	発症者数	81	335	230	216	41	60	0										963

感染症の窓

ヘルパンギーナは、発熱と口の中にあらわれる水疱性の発疹を主症状とする夏かぜの一種で、乳幼児を中心に流行します。発熱は1～3日続き、食欲不振、全身のだるさなどを起こすこともあります。発熱時に熱性けいれんを起こすこともあります。多くは軽症で、2～4日で解熱します。

病原体は、コクサッキーウイルスA群の場合が多いですが、原因となるウイルスは複数あります。毎年5月頃から増加し始め、7月頃にピークとなります。

患者の年齢は、5歳以下が全体の90%を占め、1歳代が最も多く、ついで2、3、4歳代の順で、0歳と5歳はほぼ同程度の報告数です(図)。

ヘルパンギーナに特異的な治療法やワクチンはなく、発熱や脱水に対する対症療法が中心となります。主な感染経路は、飛沫感染や接触感染ですので、うがいや手洗いなどの基本的な感染対策を徹底しましょう。ヘルパンギーナは、発症後2～4週間頃まで便からウイルスが排せつされるため、発症した乳幼児のおむつ交換を行うときは、排せつ物を適切に処理し、流水と石けんでしっかりと手を洗いましょう。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。ヘルパンギーナ(厚生労働省 HP)



ヘルパンギーナ

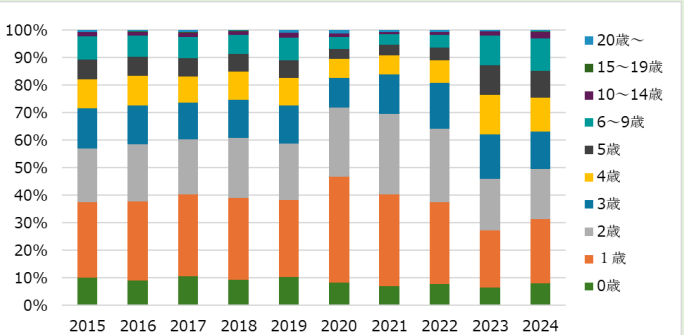


図 全国におけるヘルパンギーナの年別・年齢群別割合 (2015年～2024年)